

大平台

米沢小学校だより 第4号

やさしさと厳しさ

胡蝶蘭

校長室には、校長着任の際に先輩方からいただいた胡蝶蘭がいくつかあります。そのうち、一つの胡蝶蘭の花が全て落ちてしまいました。

どうやら水をたくさんあげすぎてしまったようです。

花に詳しい人に聞くと、「胡蝶蘭は水をあげすぎてはだめ、でも、水を全くあげなくてもだめ、その加減が難しいんだよ」とのこと。

そのことを聞いて、私が米沢小学校で教頭だった頃に、PTA役員会で当時の校長（小川泰求校長）が話した内容を思い出しました。話の内容は次のようです。

みなさんはむごい教育を知っていますか。

戦国時代、駿河国の今川義元は、竹千代（後の徳川家康）を人質にとりました。義元は家来に対し、「竹千代には、むごい教育をせよ。」と命じたのです。義元の考えを知らない家来は、竹千代に粗末な食事を与え、ほとんど休みなしで武術を教え込む生活をさせたのです。これを聞いた義元は大変怒り、このように言ったのです。

「人質の竹千代には朝から晩まで、海の幸や山の幸あふれる贅沢なご馳走を好きなだけ与えてやれ。寝たいと言ったらいつでもいくらでも寝かせてやれ。夏は暑くないように、冬は寒くないようにしてやれ。学問が嫌だと言うならやらせるな。何事も、好き勝手にさせたらよい。」最後に、今川義元はこう言ったのです。

「そのようにすれば、たいていの人間はだめになるから。」

おいしいものを食べ、快適な室内で過ごし、自分の好きなことだけする。そのような生活をしていれば、一見幸せそうに見えますが、だめな人間になることを今川義元は知っていたのです。

令和になった現在はどうでしょう。おなかが減ればおいしいものが好きなものだけ食べられます。暑いときは冷房、寒いときは暖房、常に快適な温度の中で生活できます。得意なこと好きなことは進んでやるが、苦手なことは避けてしまう傾向がみられる子どもたち……。情報化や科学技術が進んだ現代生活の中で厳しさを教えていくのが難しい時代です。

しかし、だめな人間にしないためには、時には厳しさが必要だということをこの話は伝えていきます。がまんすること、苦手なことにも取り組ませることで耐える力が身につき、たくましい人間が育つのではないのでしょうか。そのために、あえて苦労させる、目標をもたせる、できたらたくさん誉めるといったことが必要だと考えています。

校長室の胡蝶蘭の水やり、もうちょっとがまんします。